



2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月26日

ユニチカ株式会社

1. 2020年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・環境関連製品の主な展開
- ・品質保証体制に関して

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2020年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・環境関連製品の主な展開
- ・品質保証体制に関して

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

半導体用途や自動車用途等の需要減少、火災の影響などにより減収。

営業利益は、高分子事業の販売量の減少や、火災の影響などにより減益。

為替差損の影響により、営業外損益はマイナスに影響。

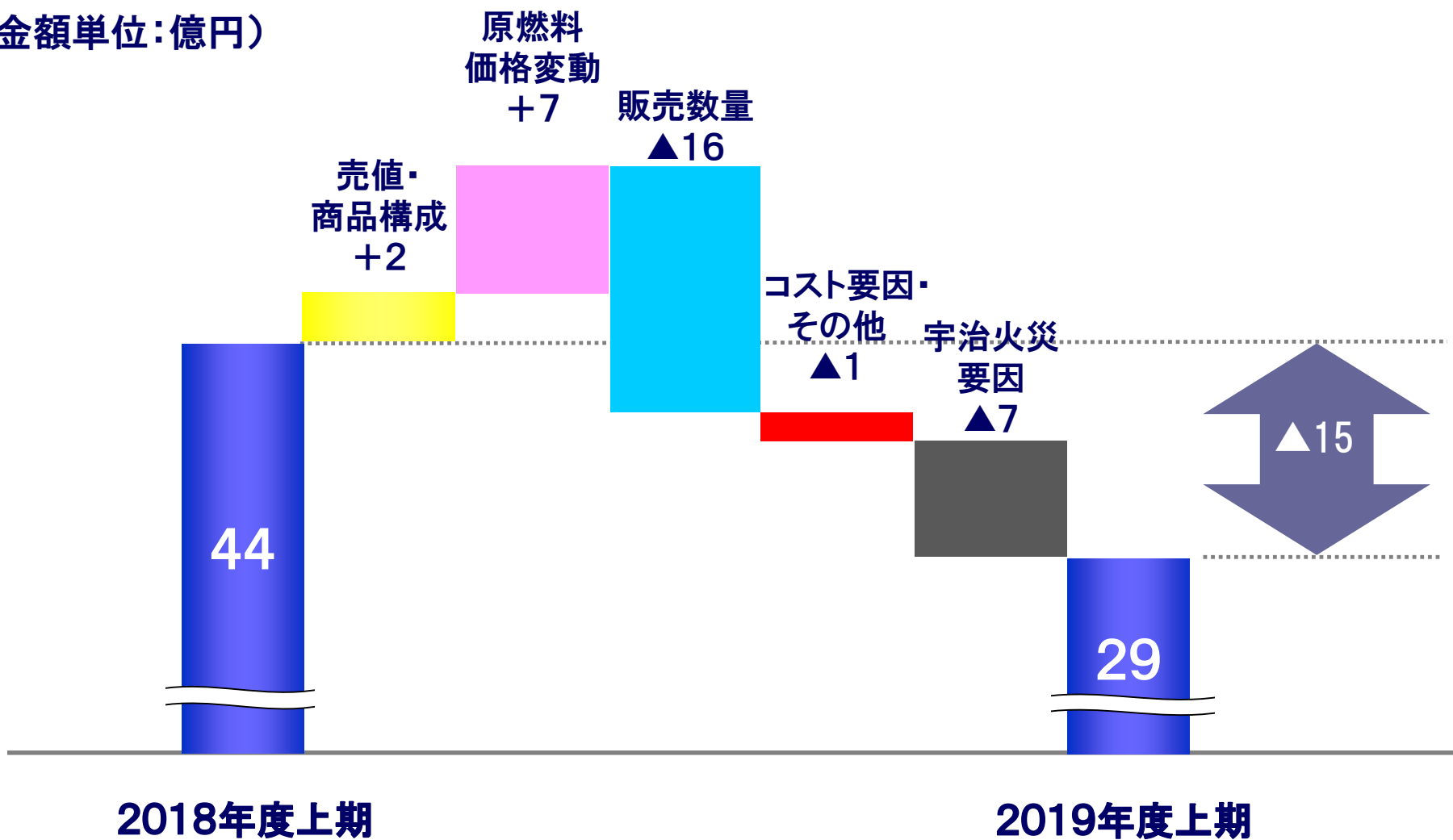
訴訟損失引当金繰入額の計上等による特別損失の発生により、四半期純利益は減益。

連結合計 (金額単位:億円)	18年上期 実績	19年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	634	605	▲29	▲5%
営業利益	44	29	▲15	▲35%
営業利益率	7.0%	4.7%	(▲2.2%)	—
営業外収益	7	3	▲4	—
営業外費用	9	11	+2	—
経常利益	43	21	▲21	▲50%
特別利益	4	1	▲3	—
特別損失	3	32	+30	—
税金等調整前四半期純利益	44	▲10	▲54	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	39	▲14	▲53	—

減価償却費	21	23	+2	+7%
設備投資	33	32	▲1	▲4%

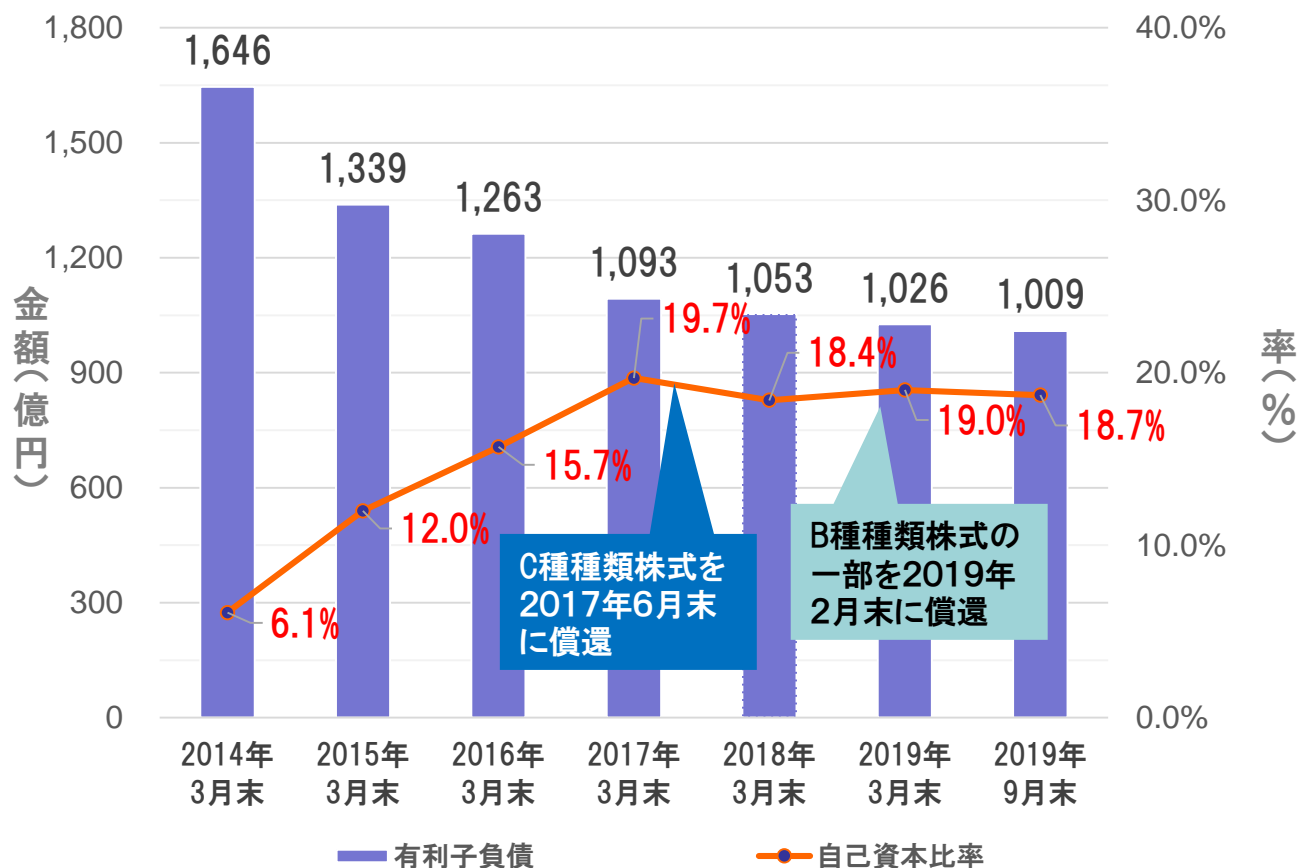
営業利益変動要因分析

(金額単位: 億円)



(金額単位:億円)	2019年3月末	2019年9月末	増減
資産合計	1,991	1,943	▲48
流動資産	899	850	▲49
固定資産	1,092	1,093	+1
負債合計	1,577	1,545	▲32
純資産合計	414	398	▲16
株主資本	373	356	▲17
その他の包括利益累計額	6	7	+2
非支配株主持分	35	34	▲0

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減
2019年9月末は1,009億円となり、着実に削減は進んでいる。現預金を差し引いたネット有利子負債は787億円。

■自己資本比率
2019年9月末は2019年3月末と比較して0.3ポイント減少し18.7%となった。

1. 2020年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・環境関連製品の主な展開
- ・品質保証体制に関して

補足資料

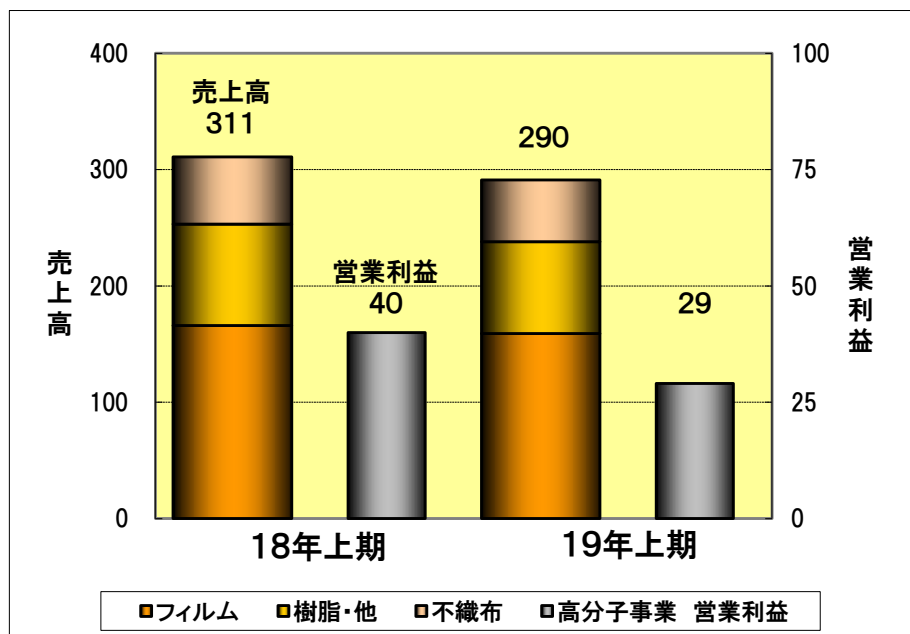
- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	18年上期 実績	19年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	634	605	▲29	▲5%
高分子事業	311	290	▲20	▲7%
機能材事業	63	65	+2	+3%
繊維事業	252	248	▲4	▲2%
その他	8	1	▲7	▲83%
営業利益	44	29	▲15	▲35%
高分子事業	40	29	▲12	▲29%
機能材事業	6	5	▲1	▲23%
繊維事業	▲0	▲3	▲3	—
その他	▲2	▲1	+1	—

半導体用途、自動車用途は減少。フィルム、樹脂は火災の影響を受ける。
フィルムは「エンブレムHG」などの高付加価値品が伸長。

(金額単位:億円)	18年上期	19年上期	増減
高分子事業 売上高	311	290	▲20
フィルム	166	159	▲6
樹脂・他	87	79	▲9
不織布	58	53	▲5
高分子事業 営業利益	40	29	▲12



□フィルム
〔減収・利益横ばい〕

◆包装分野

梅雨明けが例年よりも遅れたことなどから一部の季節商品用途の需要が鈍化。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」などの高付加価値品は、売上が順調に拡大。

◆工業分野

シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」、耐熱性ポリアミドフィルム「ユニアミド」などの高付加価値品は好調。

□樹脂・他
〔減収・減益〕

◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

情報通信機器用途は堅調に推移したが、海外向け自動車用途の需要が減少。

◆その他の機能樹脂の各素材については、米中貿易摩擦による市況悪化などにより低調に推移。

□不織布
〔減収・減益〕

◆ポリエステルスパンボンド

海外向けの販売は、顧客開拓も進み順調に推移したが、国内販売は全般的に伸び悩む。

◆コットンスパンレース

国内需要は一時的に減少したが、海外向けの衛材用途は順調に販売が拡大。

全体では増収減益。ガラス繊維の産業資材が好調、電子材料は、半導体市況悪化の影響を受けたが、高付加価値品は堅調。

(金額単位:億円)	18年上期	19年上期	増減
機能材事業 売上高	63	65	+2
ガラス繊維	37	39	+2
ガラスビーズ関連	13	13	+0
活性炭繊維(ACF)	13	13	▲0
機能材事業 営業利益	6	5	▲1

□機能材
〔増収・減益〕

◆ガラス繊維・産業資材分野

テント・防煙垂れ壁・延焼防止シート等の建築用途の販売が順調に推移、環境関連用途の販売も回復。

◆ガラス繊維・電子材料分野

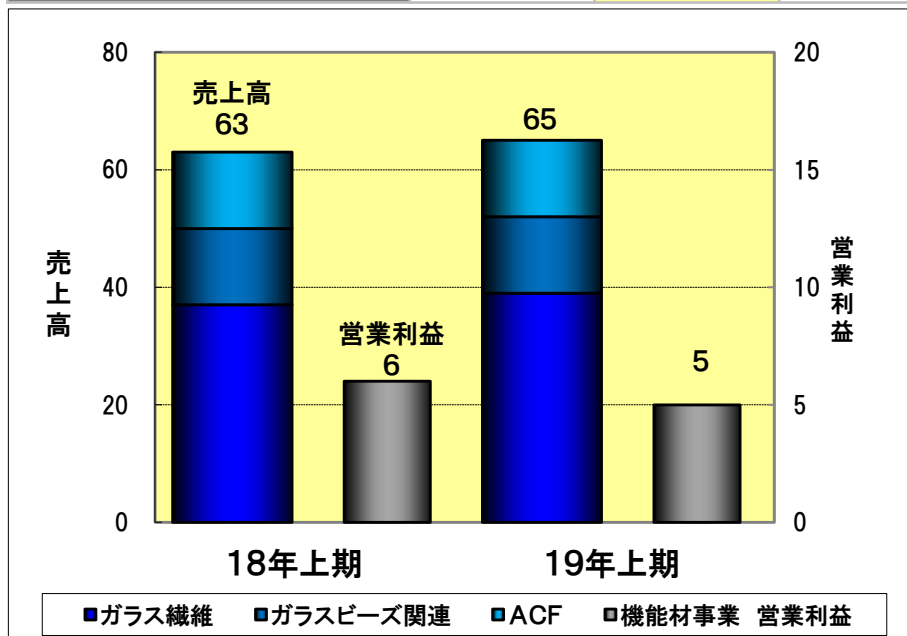
海外向けでは超薄物や低熱膨張タイプなどの高付加価値品の販売は好調、国内では半導体市況の悪化の影響を受け、収益減少。

◆ガラスビーズ関連

工業用途は自動車分野や電子部品分野の需要減少により苦戦、反射材用途は需要が回復したが採算面で苦戦。道路用途は順調に売上が伸長。

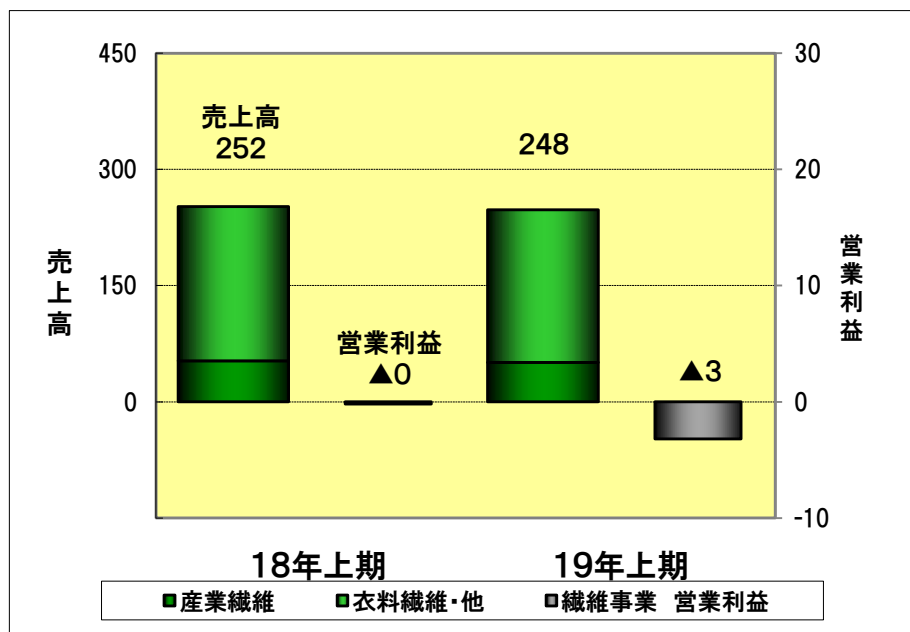
◆活性炭繊維(ACF)

主力の浄水器用途は水栓一体型を中心に好調に推移、VOC除去用途も販売が堅調、工業用フィルター用途の販売は低調。



これまでの減収トレンドに歯止め。
ユニフォーム分野は好調を維持したが、他は全体的に低調に推移。

(金額単位:億円)	18年上期	19年上期	増減
繊維事業 売上高	252	248	▲4
産業繊維	53	51	▲3
衣料繊維・他	199	197	▲1
繊維事業 営業利益	▲0	▲3	▲3



□ 繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

短繊維は、生活資材用途、産業資材用途の販売が堅調に推移したが、輸出が低調。ポリエステル高強力糸は、土木建築用途で販売が堅調に推移。
複合繊維は、資材用途の需要が減少。

◆ 衣料繊維・他

ユニフォーム分野のワーキング用途を中心に好調、スポーツ分野や寝装分野の販売は低調に推移、高機能素材の原糸輸出も減少。
海外向けデニム生地の販売は前年並みで推移。

1. 2020年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・環境関連製品の主な展開
- ・品質保証体制に関して

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

2020年3月期通期業績予想

(金額単位:億円)	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想 (11/8 修正)	増減
売上高	1,291	1,290	▲1
営業利益	81	65	▲16
経常利益	71	52	▲19
親会社株主に帰属 する当期純利益	52	2	▲50

前提	2019年度
原油(\$/バレル)	60
為替(円/\$)	110

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想	増減	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想	増減	
高分子事業	620	620	—	71	54	▲17	<p>包装フィルムは、シェアの維持に努めるとともに、「エンブレムHG」など高付加価値品の拡販や非食品分野での採用拡大。工業フィルムは、「ユニピール」や「ユニアミド」などの高機能フィルムの拡販。</p> <p>樹脂は、「Uポリマー」は情報通信機器用途での販売に注力し、米国やアジア向けで拡販。高耐熱ポリアミド樹脂「ゼコット」は用途開拓、拡販。</p> <p>不織布は、高付加価値品の拡販、コストダウン施策の推進。また、海外のグローバル販売網を強化。</p>
機能材事業	127	135	+8	12	11	▲1	<p>ガラス繊維は、環境関連用途と電子材料関連資材用途の販売に注力、海外向けに、建築用途の拡販。ICクロスは、低熱膨張タイプ、超薄物タイプなどの高付加価値品の拡販。</p> <p>活性炭繊維は、浄水器用途でフィルターの高性能化を進め、水栓一体型を中心に拡販。</p>
繊維事業	529	535	+6	2	2	—	<p>産業繊維は、当社の強みであるポリエステル共重合技術などを活かした高付加価値品の開発・拡販を加速。</p> <p>衣料繊維は、環境に配慮した素材の新規顧客拡大、海外サプライチェーンの拡充、再構築。</p>
その他	15	0	▲15	▲3	▲2	+1	耐火スクリーン是正対応がほぼ完了。
合計	1,291	1,290	▲1	81	65	▲16	

環境関連製品の主な展開（環境トレンドの高まりに向けて）

SDGsを念頭に置き、その達成に貢献し得る事業・製品展開を推進してまいります



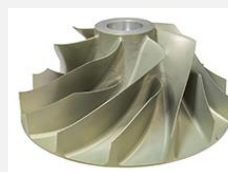
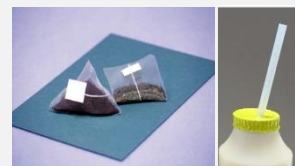
環境貢献型 機能素材

- 活性炭繊維
浄水、空気浄化フィルター用
- ナイロン中空糸膜
化学物質除去フィルター用



天然由来素材

- 「テラマック」
生分解性ポリ乳酸素材
- 「コットエース」
綿спанレース
- 「ゼコット」
植物由来高耐熱ポリアミド



3 R 関連製品

※ Reduce Reuse Recycle

- 「エコフレンドリー」
各種環境配慮型ポリエステル繊維製品（ケミカル・マテリアルリサイクル等）
- 「エンブレムHG」
高バリア性食品包装用
ナイロンフィルム（フードロス削減）



環境トレンドの高まりに向けた製品展開の推進

8月27日、および11月1日に公表しておりますとおり、当社および当社子会社が製造、販売しました一部の製品において、品質管理上の不適切な事案が判明いたしました。これら事案に対しまして、順次、お客様への説明を行い、適切な対応に努めておりますが、お客様を始めとするステークホルダーの皆様には、大変なご心配をおかけしておりますことにつきまして、あらためてお詫び申し上げます。

当社グループは、このたびの品質管理上の不適切事案について真摯に受け止め、原因究明、再発防止に向けた取り組みを徹底し信頼回復に努めてまいります。現在、以下の再発防止策に取り組んでおりますが、引続き外部調査委員会による調査を進め、その指摘、提言を受けながら、さらなる見直しを実施してまいります。

再発防止策について

(1)品質保証に関するコンプライアンス体制の強化

- ・品質保証委員会の設置
- ・品質管理組織の見直し
- ・品質管理監査の実施
- ・品質保証ガイドライン
- ・改ざん防止のためのシステム高度化促進

(2)品質保証に関する意識の改革、教育等

- ・品質とコンプライアンスに係る教育
- ・品質保証部門の能力向上

1. 2020年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

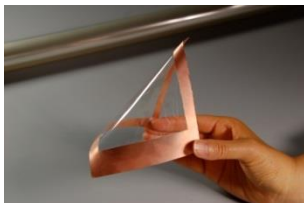
3. 2020年3月期通期業績予想

- ・2020年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・環境関連製品の主な展開
- ・品質保証体制に関して

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		中国製品のアジア市場流入等の影響を受け、やや苦戦。	△
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなどに採用が国内外で拡大しており、売上高は1.4倍に拡大。	○
	工業用ポリエステルフィルムの拡販		シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」は国内外に拡販、売上高は2.5倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡販		一部用途で需要が回復し、売上高は2.3倍に拡大。	○

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡販		太陽電池用途では需要減少。新規用途での拡販を進める。	△
	「Uポリマー」の拡販		情報通信機器用途は堅調、海外向け自動車部品用途で苦戦。	△
	高機能性PETの拡販		化粧品ボトル用途などの差別化アイテムの拡販を進める。	△

成長戦略（機能材、繊維セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	浄水器用、及び空気浄化用フィルターの 拡販による海外市場の開拓		工業用フィルター用途の販売は低調、主力の浄水器用途やVOC除去用途は堅調に推移。	△
ガラス 繊維	産業資材・電材分野(特殊クロス等)の拡販		産業資材分野は建築用途が順調、環境関連用途も回復。電材分野は、半導体市況悪化の影響を受けるが、超薄物、低熱膨張タイプなど高付加価値品の販売は順調。	○
ガラス ビーズ	需要拡大が見込まれる高精度ガラスビーズの生産強化・拡販		工業用途、反射材用途で苦戦、道路用途は売上が伸長。	△
産業 繊維	ポリエステル 付加価値品の拡販		主要顧客への付加価値品の販売拡大を進める。	△

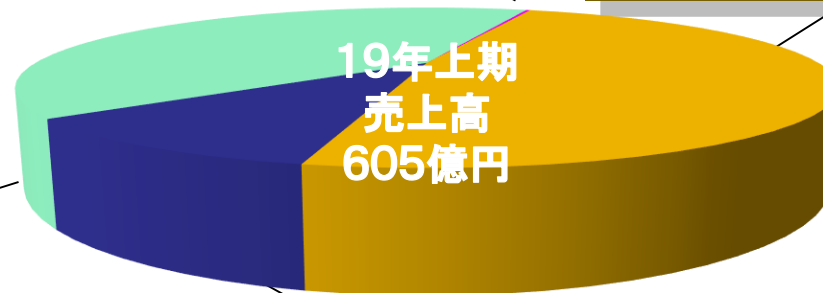
※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

その他(売上高構成比 0%)

高分子事業(売上高構成比 48%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド
спанレース



繊維事業(売上高構成比 41%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 11%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。